

事業所名 グループホームやまばと 自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の中に、地域との支え合いの内容を入れ、少しでも理念に近づけるように、職員一人一人が努力している。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を提示し、全職員で共有し、個々の生活歴を把握して、少しでも活かせるように努力している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	入所寺、面会時、見学者等にやまばとの生活のあり方等話したり、実際の生活の様子をみていただいている。また、当施設主催の行事等の折には、お話をさせていただいている。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	買い物や散歩に出かけ、挨拶を交わしたりしている。また、玄関先にいらしたときには、中に入ってお茶をのんでいただいたり、交流をもつていただくように配慮している。気軽に立ち寄ってもらえるように、機会をみて話している。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会への加入は、個人の負担も伴うし、なかなか参加することは難しいので見送ってはいるが、文化祭や祭り等には参加している。また、こちらで主催した夕涼み会等に、地域のみなさんにも参加いただき、交流を深めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議の中で、当施設主催の行事への参加の呼びかけ等を行ったり、当施設への手作りの飾り物を持って訪ねてきてくださったりしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で行い、サービスの質の向上に努め、外部評価の結果はミーティングで報告し、改善に向けて具体策の検討や実践につなげるため、努力している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で、提供しているサービスについての報告をおこなっている。また、利用されている方々の状況を説明し、今後の地域への交流の方法の意見をいただいたり、施設側からの要望などを伝えるようにしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地方自治体運営のグループホームである。特に交流などの機会はまだないが、職員の異動などにおける交流がみられる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	包括支援センターの社会福祉士に、今年度内に勉強会を開催していただくよう、お願いしている。	○	今後、実施予定。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	包括支援センターの社会福祉士さんに、今年度内に勉強会を開催していただくよう、お願いしている。また、事業所内では虐待はないが、利用者が自宅への一時帰宅の後の状態などを注意して観察するよう努めている。いつもと様子が違う時は、速やかに訪問看護師へ連絡し、指示をもらうことにしている。	○	今後、実施予定。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書並びに重要事項説明書の内容に添って説明を行い、不明な点や、家族が不安に思っていることを何うように努めている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や態度は、私達職員への思いだと理解し、日々の生活の中でのコミュニケーションを大切に、ケース記録にまとめ、必要時、ケア会議、カンファレンスで話し合いを行っている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	受診の状況を必要に応じて家族に報告し面会時には日常生活全般の報告や、出納帳にて収支のかくにんをいただいている。職員の異動は、広報誌掲載し、職員、居室担当の紹介のパンフレットも、年一回送付している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話での報告の機会にm常に話しを何うようにしている。ご意見は、ケア会議(週一回)の中で話しあっている。投書箱の設置や契約書第十条及び重要事項説明書にて説明し、受け付けているが苦情は頂いていない。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定例の所内の会議やケア会議、日々の業務の中で聞いて貰う機会があり、環境整備や研修行事等参加につながっている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	柔軟に対応できるように臨時職員を配置している。受診や家族から要望があったときは、勤務の調整ができるようにしている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動の場合は、勤務形態を把握し、利用者の混乱を最小限にする為に、新人職員には口頭での施設説明と、マンツーマンでの現場指導を行っている。その際、利用者様個々の特徴や接し方について教えている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	所内の会議やケア会議では、ケース検討を行い、母体施設で行う各種委員会や研修会に出席し、県のグループホーム会議等にも交替で出席し、復命にて周知し、資質向上に務めている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県やブロックのグループホーム定例会で交流する機会を持ち、積極的に情報交換を行っている。又、電話やファックスを活用し、必要な情報を得て、質の向上や改善に役立てる。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	互助会に全職員加入して、忘年会等の行事に参加して、職員間の親睦を持っている。又、職員体制に配慮があり、休みたい時に休める体制がある。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格手当での支給があり、励みとなっている。頑張りが形になって現れるのは、やりがいにもなってくる。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族や、居宅、施設のケアマネジャーからの情報提供をもとに、生活状況を把握し、本人に会って心身の状態や思いに向き合い、受け入れられるよう務めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族からのお話を、できるだけ細かく伺いながら、気持ちを受け止めるよう対応している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在どこで生活され、どんなサービスを利用されているのか。在宅で生活されていて大変な事は何かなど伺い、必要に応じてケアマネジャーと連携して対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人と家族と同伴で来所していただき、職員、利用者とお茶をのみながら会話して、雰囲気を感じてもらえるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中の、様々な場面で側に寄り添いながら、昔の話しや習慣、野菜作りや料理の方法等を伺っている。また、本人の思いや不安、願い等を知ることに務め、職員間で情報の共有を行いながら、日々のケアにあたっている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話の連絡の際に利用者の方の生活やお身体の様子について話し、家族からも要望や意見をいただけるような対応を心掛けている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会や電話連絡の際に、本人の思いや話した事を家族に伝え、できるだけ良好な関係が維持できるよう努めている。また、帰宅や外出の機会が持てるように家族と連絡を取り合っている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一緒に働いた友人や、近隣の親類などの面会や訪問を受けている。帰る際は玄関先まで本人と見送っている。また、以前より利用した美容院に行ったり、お墓参りに行ったりして、昔からの生活を大切にしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	向き合う位置や隣同士の相性など配慮して、座る席を決めている。利用者間で支え合い、意識して生活しており、良好な関係づくりができています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	多の施設に移られた方にも、行事等で一緒になった時など、声を掛けたり、一緒に見学したりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で、その人の言葉や訴え、何気ない行動と表情より真意を見いだす。家族を交えてどのように暮らしたいかを検討するように努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	時折々の話しの中で、家庭での生活歴や家族構成や趣味等聞き取り把握に努めている。家族や知人等の面会時にも少しずつ話を聞いていく。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの生活リズムを理解し、行動や動作から本人の心身状態をくみ取っている。日々の生活の中で、出来ることに注目し、もっと引き出せる様、支援していく。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族には、日頃の関わりの中で、思いや意見を聞き、反映させるよう努めている。アセスメントを含め、担当職員中心に全員意見交換やカンファレンスを行っている。ケアプランには十分な説明と同意をもらっている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人、家族の要望を取入れながら、毎月、担当により、評価を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや働きかけなどを、毎月の個別ケース記録や日誌に記入し、いつでも職員が確認できるようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携を取入れたり、家族の急な訪問や外出の誘いにも対応可能である。また、天候良好な日は、以前からの計画がなくてもドライブ等に出掛けたりして対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進委員のメンバーに、有識者として近隣の方や、所属する行政区の代表の方に参加してもらい、理解頂き、支援してもらっている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	特に実施していない。現利用者は、他の色々のサービス利用後にグループホームへ入所された方々であり、ケアマネジャーに時々情報を流し、共有するくらいしか行っていない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に保険者の担当職員に参加いただき、様々な情報を得ることができる。何か相談したい事がある場合、すぐ対応してもらえるよう、日頃から連携をはかっている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々のかかりつけ医が協力病院なので、職員が全面的に受診の支援にあたっている。それ以外では、家族にも協力をお願いしながら、状況把握してもらっている。今後は、職員と家族が受診に付き添うかたちで進めたい。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	認知症の勉強会等の資料を参考とし、全職員で利用者個々のプライバシーに配慮し、尊厳を守る対応で支援にあたっている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	家族情報や、本人の会話の中から、本人の望む事や出来ることをみだし、自主的に関われる様な支援に心掛けている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは持っているが、その人らしい暮らしができるように、支援を行っている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	基本的には、本人の意思で行っている。また、見守りや支援が必要な時には介助している。また、家族の協力により、入所前からの行きつけの美容院等へいついていただいている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下準備、盛りつけ、片付け等も利用者と共に、職員と同じテーブルを囲み楽しく食事出来るようにしている。また、行事や記念日等には特別なメニューで楽しんでもらっている。畑やプランターの野菜を収穫し、食卓に並べ会話をしながら食事を大切にしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人が以前から好きだった飲み物等は家族と話し合い、本人持ちで楽しんでもらっている。今後は、リクエスト食にも取り組みたい。	○ リクエスト食の実施。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間や習慣を把握し、トイレ誘導することで、トイレでの排泄を促している。排便コントロールの必要な利用者には、排泄チェック表を使用しトイレで排泄できるよう、支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴により、気分転換をはかっていただく。入浴を拒む人に対しては、無理強いせず声掛け等の工夫で、ひとりひとりに合わせた入浴支援を行っている。また、入りたくないときは、日にちをずらして対応している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	出来るだけ、日中に活動を促し、ゆっくり休息出来るよう支援する。寝付けない時は、飲み物等を飲みながらおはなしをしたりしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の役割部分、得意分野でのそれぞれの力を発揮できるように援助している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、家族や職員などからの話を聞いたりして、お金を使う必要がないと言うことを思っており、皆さんのお金は預かっている。今後、買い物して、自分で支払う機会をもうけていきたい。	○	買い物して、自分で支払う機会をもうけていきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気分転換やストレス発散、また、四季折りをかんじていただくため、外出、ドライブ等実施している。また、家族の協力を得ながら、外出や理髪店を利用されている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の協力により、墓参りや親類宅訪問に出掛けたりしている。また、遠方へのドライブ等も家族より希望があった時は、日頃の体調管理に配慮し、支援につなげている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望利用者には、本人持ちで小銭を用意し、気軽に電話がかけられる様な支援をしている。また、ハガキや手紙が届いた利用者には、返事が出せるように声掛けし、支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	御家族、友人、知人、近隣が気軽に訪問できる様雰囲気作り心掛け、また、訪問時間は定めず、いつでも訪ねて来て頂けるよう配慮している。		
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者のケアに対して、職員間でミーティングなどを通し、様々な情報を共有しあいながら、いかに身体拘束をしないで安全にすごしてもらえるのか、話しあいながらケアにあたっている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者は、下駄箱や外の様子を見に行き、自由に出入りし、職員が見守り、安心できる声掛け、対応を行っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼、夜間ともに、職員は本人のプライバシーに配慮しながら、利用者の所在や様子を把握して、安全に過ごしていただけるよう、努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一定の場所に保管し、必要に応じ職員が見守りながら使用してもらっている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	各部署でヒヤリハットを記入、回覧し、安全対策委員会で勉強会や話し合いを持ち、職員間で徹底している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	今年度、四月以降は実施していない。	○	今年度中には、応急手当や初期対応の訓練を実施したいと考えている。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難経路図や消火器の使用方法を図式化し、常に目のとまる場所に張ってある。本年度は母体訓練に合わせて、一度、避難訓練を行っている。	○	今年度、二回目の避難訓練を、単独で、十月末に実施する予定である。運営推進会議(十月開催予定)の中で話し合いを持ち、協力して頂く方向で動いている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時には、生活の中における危険なリスクを説明している。(現在の状況から考えられる予後や医師の意見も聞きながら、常時、説明している。)また、年二回、転倒、転落のアセスメントを実施し、チェック表に記入している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況を職員が把握しており、いつもと状況が少しでも違う場合は、訪問看護ステーションの看護師に相談しながら受診を行っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のコピーをケース毎に整理し、いつでも職員が確認できるようにしている。また、服薬時は声だし確認しながら、飲み込むまで目を離さないように注意している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	朝食後は、必ずトイレに座ってもらう。食材の工夫、運動を心掛けている。便秘症の方は、医師と連携を取りながら、個々に合わせた排便コントロールしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行い、必要な方には見守りや介助を行っている。火、金は、全員義歯洗浄、消毒し、保清に努めている。衛生面では、他に、毎週日曜日、コップ、歯ブラシの消毒を実施している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の献立は記録に残し、食事、水分摂取量が少ない利用者をチェックし、好みの物を提供し、全職員で情報を共有している。時々管理栄養士の専門的なアドバイスを頂いている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	職員が感染症委員会に所属し、勉強会にも参加して、全職員に徹底している。マニュアルも作成されており、入浴時には、全身の皮膚観察に努めている。ノロウイルス対策として、手洗いの徹底、ペーパータオルを使用し、手指を消毒、予防に努めている。インフルエンザ予防接種は、職員、利用者とも実施している。他、職員は肝炎検査をうけている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、布巾は毎食後漂白し、常に食器の拭き取りには乾燥した布巾を使用し、清潔に努めている。買い物は毎日行い、新鮮な食材を使用している。常に、冷蔵庫内の点検をして、日付け等に気配りしている。調理したものは、時間をおかずに提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入口に案内板を掲示し、玄関にはベンチ。プランターを置いて、通りがかりの人が一休みし、一緒にお茶を飲んでいただいたりして、交流が図れるよう、工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に台所での音、匂い、また、玄関前のプランターの野菜等の成長を見て、生活感、季節感を取入れる工夫をしている。(日差しが差し込む時は、ブラインドで常に調整)。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを置き、利用者同士で談笑できる空間を作っている。花など飾り、居心地のよい居場所作りをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時は家族に対して使い慣れた物などを持ち込んでもよいと説明している。家族と本人の判断で全員が備え付けの家具を使用している。その他、電化製品を持ち込んでいる方もいる。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	窓の開閉をこまめに行っている。外気との温度差があるときは、利用者の状況、温度、湿度計をみながら調整している。トイレは換気扇などを利用し、消臭に努めている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できるだけ自立した生活が営めるように手摺りを付けたり、浴槽の深さを調節したり、出入りに改修工事を行いスロープ付けたりしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	見える位置に目めくりカレンダーを置き、すぐに日付け確認できる様になっている。小上がり段と床の色が同じなので、テープを使用し危険を防いでいる。(トイレに目印を付け、常夜灯でわかりやすくしている)。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関前にベンチを置いて、いつでも腰かけて外を眺めたり、ボール遊び等のレクリエーションに活用している。また、プランターや畑に花や野菜を植えて、いつでも眺めたり、収穫出来る環境を作っている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)